



スイスに学ぶ“乗っ取り戦争”

1 件のメッセージ

【夕刊】伊勢雅臣(パワーゲームメルマガ) <kitano-info@prideandhistory.jp>
To: 3443akira@gmail.com

2023年6月11日 17:00

～中略～

■ 3. 我が国は、情報戦の総攻撃を受けている

スイス政府が国民に配布している『民間防衛』では、敵からの侵略には次の段階があるとしている。

- 第1段階 作業員を送り込み、政府上層部の掌握と洗脳
- 第2段階 宣伝。メディアの掌握。大衆の扇動。無意識の誘導。
- 第3段階 教育の掌握。国家意識の破壊。
- 第4段階 抵抗意識の破壊。平和や人類愛をプロパガンダとして利用
- 第5段階 教育やメディアを利用して、自分で考える力を奪う
- 最終段階 国民が無抵抗で腑抜けになったときに大量移住して侵略完了

現代日本においても、いちいち思い当たるふしがある。
たとえば第1段階として、自民党の中にも福田元首相のように「南京大虐殺記念館」を訪問する人もいるし、かつての民主党政権に至っては、蓮舫のような国籍も定かでない議員や帰化議員が権力を握っていた。

第2段階でも、NHKや民放、新聞の偏向報道ぶりは弊誌でさんざん取り上げてきた。
第3段階では日教組を中心とした偏向教育はすでに長い歴史がある。

「従軍慰安婦」や「南京大虐殺」は平和や人類愛をプロパガンダとして利用する第4段階であろう。第5段階の「自分で考える力を奪う」の成果は、「さっさと金をはらって」とか「ひと言、謝って」とか言う人にすでに表れている。

いずれにせよ、第2段階から第5段階まではすべて情報戦なのである。

我が国は、情報戦の総攻撃を受けている、
と言ってよい状態なのだ。

■ 4. 「誰も韓国大使に文句を言っていない」

公聴会の2週間ほど前、山岡氏があるランチの席で、韓国大使と一緒にいる機会があった。

大使が席を立とうとした時に、山岡氏は「大使、大使」と呼びかけ、

「慰安婦像を建てようという人たちがいるらしいと聞いたので、非常に懸念しているのだが」と言った。

韓国大使が驚いた顔で「それは民間がやっていることで、政府としては関知していない」と答えたので、山岡氏が「政府として関知していないのだったら、これから関知してやめるようにいったらどうです？

そんなことをオーストラリアでやってもしようがないでしょう。迷惑です」と言うと、

「そんな苦情を言ってきた日本人は君が初めてだ」と非常に驚いた。

つまり、オーストラリアに日本人はたくさんいるのに、誰も韓国大使に文句を言っていない。日本人は、みんな黙ってしまうのだ。そうそうたる企業の社長たちがいても、もちろん誰も何も言わない。日本の大使も外交官も一言も意見していなかったのだろう。[1, p53]

敵は情報戦の攻撃を次々と仕掛けてきているのに、日本人はみな他人事だと思って、知らんぷりをしている、という状態のようだ。

これは正しく第3段階の「国家意識の破壊」、第4段階の「抵抗意識の破壊」、第5段階の「自分で考える力を奪う」が奏功しているという事ではないか。

韓国大使は驚きのあと、少し気をとりなおして、「サッカースタジアムに『韓国人お断り』と書いてあった事件もあったじゃないか」と反論した。

山岡氏はすかさず、こう言い返す。

それは日本国内でも厳しい批判を受けていることで、そのこと自体が本質ではない。

慰安婦像を設置して、協動的に平和に暮らしている我々の生活を乱す権利は、あなたたちにはないでしょう。[1, p55]

韓国大使は、これには本当に驚いた顔をしていた。

■ 5. 「議論の土俵を変える」

山岡氏の主張で注目すべきポイントは、「協動的に平和に暮らしている我々の生活を乱す権利は、あなたたちにはない」という点である。

これは公聴会においても、

「そんな問題をローカル・コミュニティに持ち込んだらダメ」と主張した事に通ずる。

すなわち、
中国、韓国系移民が提起している慰安婦問題は棚上げにして、
ローカル・コミュニティにこういう問題を持ち込んでいいのか、
というように議論の土俵を変えてしまったことだ。

この土俵では慰安婦像を建てようとする中韓勢力は、
ローカル・コミュニティに不和を持ち込もうとする悪役となる。

また、地元のオーストラリア人や、
中韓以外の外国人も味方につけられる。

国民が仲良く平和に暮らしている日本国内では、
慰安婦問題のような対立があると、
「さっさと金をはらって」とか「ひと言、謝って」とか、
なるべく早く対立を解消しようとするが、
それでは相手の思う壺である。

情報戦を仕掛けられているという危機意識を持って、
その情報戦にいかにか勝つかを、考えなければならない。

そのための一つの戦術が、
この「議論の土俵を変える」という手段なのである。